



行事予定表

1	水	航空写真・集合写真撮影
2	木	サロン
6	月	絵本の読み聞かせ(5歳児)
8	水	運動あそび(3歳児以上)／尿回収日
13	月	交通安全教室(4・5歳児)
14	火	ピヨピヨひろば
15	水	おべんとうデー
16	木	カレーの日・施設見学者来園/サロン
21	火	消防署見学(5歳児)
22	水	リトミック(2歳児以上)
24	金	避難訓練
28	火	巡回相談
30	木	誕生会/内科検診(15:00～)

今月は、秋の自然に触れながら、沢山戸外で遊んだり、お散歩に出掛けようと張り切っています！



八月からずっと雨・雨・雨の毎日
何もかも腐ってしまいきらいだった。
気がつくくと日暮れが早くなり
風も冷たくなって
一挙に秋が深まっていた。
澄み切った空気
赤や黄に染まった木々
美しく装う自然、
高く深い空とろろ雲
十一月こそ、あの秋に戻って欲しい。
思い切り野を駆け、
青空に唄い、友と戯れる、
子ども達の生活を充実させたい。



楽しかった！運動会。

運動会では、大勢の方にご参加頂き、有難うございました。当日は、普段の姿が見せられなかった子ども、翌週の運動会ごっこでは、笑顔で楽しむ姿がありました。何より、他のクラスの遊戯を踊る姿を見て、大変嬉しく思います。

今月の予定の中から



●尿検査提出日(8日)
・当日前の尿をとり、10時までに提出して下さい。お子さんの体調管理にとって大切なことです。

●交通安全教室(13日)

・今月は4・5歳児で牛久シャツまでお散歩に行きます。道路の歩き方や渡り方など教員の方に見て頂きます。

●カレーの日(16日)

・子ども達にはカレーの食材を切る音や釜戸の薪の燃える匂いやパチパチと燃える音、大鍋の中で食材が煮えてくる匂い、グツグツと煮える音など、感じる事が出来る様に、保育士自身も大切にしているカレーの日。今日は一日カレー三昧！だいちぐみもフルーチェ作りを頑張ります。

●誕生会(30日)

・みんなでお祝いをする誕生会！今月は理事長先生が素敵な手品を見せて下さいます。不思議な気持ち！夢見る気持ちが大きく膨らみますように。

●内科検診(30日)

・当日欠席の場合も、受診時間に来園して頂き、全員の方の受診をお願いします。詳細については11月の「ほけんだより」をご確認ください。

☆お願い★お知らせ

☆送迎時の駐車場の混雑時はお互いに気に掛けましょう！
・夕方のお迎えの時、駐車場が混んでいるにも関わらず、廊下や玄関でおしゃべりをしてい

姿が見られ、とても残念です。お互い様の気持ちと、子ども達のお手本だという事を忘れないで行動したいものですね。

★フードのついていない薄手のジャンパーのご用意をお願いします。

・ジャンパーは、月曜日から金曜日まで園に置いて頂き、週末には持ち帰り、洗濯をお願いします。また、ジャンパーを掛ける子ども用ハンガーに名前を書いて一緒にお持ち下さい。

★非常勤の山本葉先生が入籍して、石崎葉先生になりました。

「感じること」から始まる



保育室の前を通り過ぎようとした時に、子ども達が、テレビの画面に向かって、楽しそうに英語で歌ったり、復唱したりしていた。英語教育システムを導入して1ヶ月も経たないのに、あまりに流暢に発音しているのがビックリした。初めは何を言っているのか分からなかった。耳からは入ってきた通りに発音するので、全くネイティブな英語なのだ。テレビの画面のブルース先生と同じ発音で、英語を話している。私の英語とは全く違う。あんな発音は私には絶対できないし、聞き取ることもできない。私の英語は、まず文字(単語)を並べて、文章を作成してから発音する。聞く時も同様。聞き取れる単語を捕まえてから文章を構成する。会話にならない。文字を介した日本語の英語である。そういえば、担任の先生は、進行と音頭をとるだけで、英語を話さないで下さい、と言われていた。日本語の英語になるからであろう。▼一時「3歳児神話」の真偽について論争があった。3歳児神話には2点あり、「3歳になるまで、母親が子育てすべきだ。」と、「脳の8割ができてしまう3歳までの環境が大切だ。」というものだ。「3歳までは母親が

という神話は今では退けられている。人類の家族史、からみても、子どもと親密な関係を持つ人が、近くにおいて保育をしていていれば、それが、父親であっても、祖母、あるいは他人でも良い。脳の発達に関わる3歳児神話も、早期英才教育の根拠になっっているが、その教育効果は疑わしい。発達認知神経科学の専門家の間でも「早期教育の効果を科学的に証明したものはない。スポーツや音楽でも、全ての子どもがプロになれる程伸びることはない」という。▼しかし、この時期が大切でないという訳ではない。この時期は特定の保育者との親密な関係と適切な環境が非常に大切である。悪い環境で育つと、発達が遅れるという研究がある。虐待を受けた子は、脳にもダメージを受ける。発達の過程では「臨界期」という時期がある。生まれてすぐの動物の片方の目を一定期間塞ぐと、その目は弱視になってしまう。臨界期に光の刺激を受けないと、脳の視神経が育たないのだ。シカゴ大学の小児科医が、生まれつき耳の聞こえない2人の乳児に、人工内耳をつける手術をして、聴覚を取り戻した。しかし、10歳の時、2人の成長に大きな違いがあった。一人は話す能力と学力を身に付けたが、もう一方は話す力がなく、手話での学習クラスにいた。話す力がつかなかった子は、ほとんど会話のない家庭環境の中で育てられていた。耳から入る言葉は、脳の発達に欠かせない栄養。聞く能力は、話す能力、読む能力に繋がりが、読むことで広く学べるようになる。英語の環境は整ったが、その前に親子の会話がまず大切だ。絵本を読んでもあげて、会話を楽しむ。英才教育は必要ないが、子どもの脳が発達するためには、良い環境が必要なのだ。

理事長 浅田 精利

